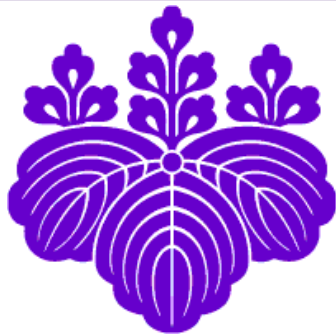




茗溪 かながわ

MEIKEI KANAGAWA

NO.9

発行 神奈川茗溪会（旧 茗溪会神奈川支部） 発行者 矢野正人

平成 28（2016）年 10 月

清水会長から矢野会長に バトンタッチ

7月2日（土）、神奈川茗溪会総会、講演会、懇親会が
横浜中華街の「ローズホテル横浜」にて開催されました。

総会に先立って開かれた役員会に二十五名の役員が出席されました。その席で、清水会長が第三号議案「神奈川茗溪会の副会長の役割と分担について」と第四号議案「神奈川茗溪会役員等の選出」を提案されました。

第三号議案の趣旨は、会員を実質化し組織化するために、副会長の個々の役割を明確にして実効性のある組織的な活動を展開したいというものでした。具体的には、副会長個々に以下の役割を充てるというものでした。

会長は、各副会長に以下の役割を委託する。

- 会長代行 会長を代行し、他の副会長を統括する。
- 行政担当 官公庁、国公立機関等に関する同窓の把握（会員化・組織化）
- 学校担当 大学、高校、小中学校、専門・各種学校等に関する同窓の把握（会員化・組織化）
- 企業担当 企業、金融、マスコミ、法曹、医療等に関する同窓の把握（会員化・組織化）
- 地区担当 五地区の地区委員を統括する

第三号議案についての了承を得て、第四号議案である新役員人事が以下のように提案され、了承を得ました。

会長

矢野 正人（S五三教院農）

副会長

会長代行

大畑多津雄（S五二教大数）

行政担当

小泉いづみ（S五一教大体）

大石 進（S五六筑大休）

学校担当

出井 善次（S五一教院農）

望月 正大（S五一教大数）

企業担当

中道 徹（S五九筑大生）

山崎 紀彦（S五三教院農）

地区担当

瀬木 明（S五二教大数）

山田 和彦（S五三教大農）

事務局長

加藤 充洋（S五六筑一社）

総会は五六名の参加の下に、三橋史朗氏（S五四筑一自）の総会司会により会が進み、山崎紀彦議長の下で、すべての議案が満場一致で可決されました。



来年の開催日。第1土曜日は会場が予約一杯で、7月22日（土）となりました。ぜひお越し下さい。

「茗溪と私」

前会長 清水進一（S四三教数）



「私は昭和二十年七月の生まれ、まさに敗戦後の七十年余りを生きてきました。この間、何度か人生の節目という時があり、またその時々茗溪関係者の方々とのお会いがありました。」

叙勲されたこと、神奈川茗溪会会長をご勇退なさることを機に、ぜひ、清水会長のご講演をいただきたいという要望があり、実現したのが、今回の講演会でした。ご

講演の冒頭の言葉が、初めに紹介させていただいた文です。
清水氏は、五つの「人生の節目」を挙げておられました。

- ① S三六 中学から高校進学
- ② S三九 高校から大学進学
- ③ S四三 大学から教職
- ④ S六〇 教員から行政職
- ⑤ H十八 県職員から私大職員

その節目に、茗溪の先輩との出会いがあり、恩恵と影響を大いに受けたということが主なテーマともいえました。松永幸夫、堀越進、小澤寛、指宿良昭、そして、鶴川昇・・・錚々たる先輩諸氏のお名前が次々と登場しました。

「私は数学が大嫌いだっただのですが、高校に入って茗溪出身の先生と出会って大好きになり、大学は教育大に行くしかないと考えるようになりました。」

「柏陽高校を振り出しに県立高校の教員生活を始めましたが、昭和六〇年に行政に移り、その三年後に高校教育課に勤務しました。その時の上司が指宿さんでした。その後も教育局で課長、部長を務めました。その時には元茗溪会神奈川支部長の鶴川さんいろいろなお世話になりました。」

話題の尽きない講演でしたが、全容をお伝えできません。連載にしたいほどです。

新会長挨拶

鵜川氏・川田氏・清水氏

三氏から引き継いだ茗溪の水

矢野正人 S五三教院農

平成二十一年四月三日(金)夜、相模大野の中華料理屋で、川田氏と清水氏、お二方と席を共にさせて頂きました。両先輩の酒席に陪席させて頂いたというだけで、とても嬉しく、有頂天の心地でございました。

神奈川支部の今後についてのお話でした。川田氏が神奈川支部長を退任なさり、清水氏に後を任せること。ついては、矢野が事務局をまとめ清水新体制を支えること、このことについては、堀江氏をはじめとする大先輩の方々に諒承いただいているということでした。

神奈川支部の総会に参加させて頂いたのは、平成十年のことです。伊勢原高等学校の教頭でした。校長が生沼啓二先輩で、「矢野教頭、行くよ」。その一言から、茗溪会神奈川支部との関わりが始まりました。その後、「管理職等の会」の事務を溝口典彦先輩(当時、県立栗原高等学校長)から引き継ぐこととなりました。鵜川氏から川田氏へと支部長が交代したのもその頃です。

川田支部長時代(四期八年)に、支部体制も大きく変わることでなりました。

現在の支部の基本的な考え方や事務運営の仕方は、この時期に形作られました。支部総会の時期と会場が固定化(七月第一土曜日、ローズホテル横浜)したのもこの時期です。

清水支部長時代(四期八年)は川田時代から引き継がれた課題を明確にし、解決していく時期でした。

【課題】

- ・組織の再編と活動の活性化
- ・教員中心の組織からの脱却
- ・東京教育大と筑波大の接続

【解決策】

- ・支部会則の改定
- ・地区設置と地区委員の選任
- ・事務局の充実強化
- ・会員個々に以下の内容を送付
- ①総会案内
- ②会費納入のお願い
- ③会報(年二回発行)
- ・若手の会の発足



本木代議員(中央) 山田副会長(右)と談笑する矢野会長(左)

また、茗溪本部の組織変更に伴い、神奈川支部も「神奈川茗溪会」と改称し、六名の評議員を本部総会に選出しております。

川田支部長、清水会長の下で、事務局の仕事をさせて頂きました。楽しかったという表現しか出てきません。

理屈抜きで手を差し伸べてくれる先輩や後輩、そして同僚と、たくさん仲間にも恵まれました。ありがたく存じております。

五月三日(火)。清水会長からお電話でお話をいただきました。会長とともに退任するつもりでおりましたが、お引き受けすることになりました。

「神奈川茗溪会は全国から注目されている」と、川田理事から機会あるごとに激励を頂戴しておりました。責任を感じます。

沢山のご恩に対するささやかなお返しと思い、精一杯やらせていただきます。

筑波の夏風景



ついに筑波大学卒業生が定年を迎える時を迎え、筑波大学の校舎やその風景も次第に貫禄を備えてきました。夏休みを利用して訪問した筑波大学の風景をいくつか紹介させていただきます。

まずは、右の写真。

松見公園のタワーですね。かつては大学近くの最も大きな繁華街であった松見商店街が近くにありますが、少しさびれた感じがしました。

大学には一之谷、平砂、追越の三つの学生宿舎があり、共用棟には売店、食堂、浴場がありました。今は閉鎖されていて、追越の共用棟にはなんと保育所ができていました！学生宿舎はオートロックで廊下通路にも窓がついていました。

大学中央のペDESTリアン周辺の建物はあまり変化がありませんでしたが、その背後に次々と研究棟のようなものが建って



筑波大学の全景と筑波山方面の眺望
筑波大学 HP (大学案内) より

いました。大学のシンボルともいえる中央図書館は、かつて新聞を読むスペースだったところにスターバックスコーヒーがあり、なるほどという感じでした。

大学内の街路樹はどれも大きく大きくなり、道路から建物が見えにくくなって、あらためて時の経過を感じさせられました。当時の建物は全体にゆったりとつくられていたせいか、今もなかなか見栄えがしました。

吉川亮 S六〇筑二比

部活動の思い出

卓球部

望月正大 S五一教理数

筑波移転が決まっていた東教大を第一志望にしたのは「自宅から通学できて高校の先生になるなら茗荷谷しかない」と考えたからです。しかし入試直前に一日中「あさま山荘」のテレビ中継を見てしまい、不安の中で本番に臨みました。

合格発表後、開放感に包まれた私はルンルン気分で校内見学に入りました。W館の西側に回ると、かわいらしい体育館があり、中からカーンカーンと小気味よい音が聞こえてきました。小窓から中を伺うと、手足の長い「麗しき」女性がラリーをしていました。卓球というスポーツとの出会いでした。私はこの美しい光景に憑りつかれてしまったようです。

最初は、全くの初心者らしく素振りをしたり、球拾いをしたりしていました。ところが、「太陽にほえろ」が始まり、「日本列島改造論」でバブルがどンドン膨らんでいく中、ベトナム戦争は激しさを増し、その一方では日中国交回復が樹立する時勢で、私はいつの間にか国会議事堂付近を歩くことが多くなっていました。



現在の現役部員は関東学生卓球リーグにおいて、男子は一部、女子は二部に所属しています。リオオリンピックの卓球競技は、男女の活躍もあつて大いに盛り上がりました。

女子団体は三人でチームを組むのですが、控えの4番目の選手として登録されているが平野美宇さんでした。ご両親は茗溪卓球クラブの会員です。四年後の東京オリンピックでは団体戦のメンバーとして期待されています。

部活動の思い出

柔道部

安藤彬 S三九教大体

私が入学したのは昭和三四年でありました。

私は小中学校時代と虚弱体質であつたので、高校二年の時、父利男（高師体育科昭和十年卒）が柔道をやっていたこともあり、強い体にと柔道部に入部し、幸いにも約一年の稽古で初段に合格することができました。

高校卒業後の進路をどうするか迷っていると、国公立を勧められ、一期校は教育大を受験しました。実技試験の時に入部希望調査が行われ、柔道部に入部しますと回答しました。

無事入学試験に合格し、四月に

なると春の合宿が埼玉県大宮で開かれ参加しました。

教育大の柔道部のレベルやどのような人がいるのか全く知らずに行く事になり、受験勉強でなまった身体は悲鳴をあげ、乱取りでは気がつけば宙を舞い、立っている暇も無いありさまでした。

四月十日に合宿は解散となり、疲労困憊で急ぎ帰宅しましたが、疲れのせいか熱を出し寝込んでしまったため、入学式には父が代理で出席することになり、後で皆から冷やかされました。

当時の四年生には県立横須賀高校出身の猪熊功氏が在学され、同県人ということよく声をかけていただき、稽古は猛烈でも終わると一年生を夕飯に連れて行ってくれたことも多々ありました。

同年四月二十九日、猪熊氏は全日本柔道選手権で現役学生として初めて優勝されました。腰痛に悩まされながらも昭和三八年には再度の優勝、そして三九年の東京オリンピックでは重量級で金メダルの獲得と素晴らしい戦績を残されました。しかし、会社の業績不振により非業の最期をとげられたのは、柔道界にとってもまことに残念なことでありました。



さて、当時の柔道部の練習は幡ヶ谷で体育学部の学生を中心に行われていましたが、大塚には他学部の学生が稽古をする道場がありました。

嘉納治五郎師範が直接指導をした東京高師に始まる柔道部の学生・卒業生は、「精力善用」「自他共栄」を旨に柔道の普及発展につとめ、その流れは教育大、筑波大と脈々と受け継がれて、現在に至っています。

会員の皆様より

今年も総会の案内に多数のご返信をいただきました。ありがとうございます。頂戴したお葉書の中から紹介させていただきます。

▼高齢のため失礼します。毎日絵の作品制作をしています。
十一月六日十二日 個展

(星野祐二様 S二九教大芸)

▼軍歌「戦友」ではないけれど、「・・・不思議に命永らえて・・・」老婆と年一、二回のフルムーン旅行を生き甲斐としております。

(藤田彰三様 S三〇教大英)

▼日本詩吟学院丘風会に所属。日々声を張り上げているので元気は元気ですが・・・

(鈴木康央様 S三三教大農)

▼NPO「かながわ子ども教室」で理科好きの子どもを育てる活動をしています。小学校の理科クラブ、学童保育等で手作りの教材を使って小グループの実験を通じて科学に対する興味を育てています。HPで見て下さい。

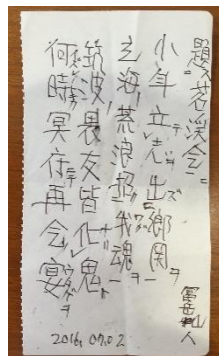
(大濱眞理子様 S三五教大化)

▼定年退職後、孫の世話、趣味に結構多忙な日を過ごしています。

(肥本久子様 S四七教大休)

懇親会に参加された大先輩から、神谷克政氏(H十八筑院数理)を介して、以下の便りが舞い込みました。

「七月二日、神奈川茗溪会に参加し、御世話になりました。会場の混乱のなかで興に乗り、推敲不十分のまま、即興の漢詩吟を披露しましたが、訂正すべき部分を補正しました」



右が即興で披露された漢詩です。石塚崇氏が作者からその場で頂戴したものをお借りしました。

訂正文は以下の通りです。

少年立志 出郷関 玄海波濤 招我魂
筑波盟友 皆化鬼 何時冥府 再会宴

富岳山人

少年志を立て 郷関を出す
玄海の波濤 我が魂を招く
筑波の盟友 皆鬼と化り
何時冥府にて再会の宴を

富岳山人氏の便りは、お孫さんから神谷氏に渡されました。お孫さんは神谷氏が受け持つ学生ということでした。ご縁なのではないですね。

叙勲おめでとうございます

◆H27 秋の叙勲 瑞宝小綬章
石塚 崇氏 (S41 教大農)

◆H28 春の叙勲 瑞宝小綬章
清水進一氏 (S43 教大数)

◆平成 28 年度若手交流会開催のお知らせ

平成卒業（修了）の方々のご参加をお待ちしています。

- 日時 11月 19日(土) 18時より
- 場所 大陸 (横浜スカイビル 11F)

参加申込み等は、若手交流会幹事まで。
email : wakate@kanagawa-meikei.org



愛甲・厚木・海老名の会

九月二三日(金)十八時三〇分。厚木の街中にある中華料理店「東苑」にて、愛甲、厚木、海老名に在住または勤務地のある同窓の会が開かれ、十八名が集まりました。

七月総会の後の二次会の席で、清水前会長のお話しが話題となり、様々な分野で同窓の輪をもつと広げたいね。そのためにまずは、市とか郡とか町単位で同窓の気軽な交流をしてみようということになりました。たまたま厚木に馴染みのメンバーだったので、「じゃあ厚木から始めてみよう」ということになりました。発起人は、その場にいたメンバーなどとなり、米田二良氏(S四九教大数)が発起人代表を務めることとなりました。

案内を発送した人数は六〇余名で、返信葉書に記された内容は、こういう会を開くことへの賛意と激励の言葉でした。



大きな円卓がジャマして全員がうまく並ぶことができず、鈴木孝幸氏(H04 筑三情)が苦労して構図を決めました。川田理事(中央)の右隣に、大先輩の中村昭氏(S25 文二)が座ってらっしゃいます。



寮歌祭(1984)の写真を紹介する川田理事。懐かしい先輩の雄姿が写っていました。

(文責 大畑多津雄)

会の終わり頃に、高井健太郎氏(H八筑数理)が駆け込んできました。仕事(富士通)帰りでした。こういう若手も参加してくれる。続けたいと思いました。

二〇年程前は、七月の総会は各地区持ち回りで開催していました。地元開催なら参加したいという方もいらつしやるのかもしれない。各地区持ち回り開催というのも、一理あると思いました。

案内の発送が開催日の十日前でしたので、都合が合わない方も多くいらつしやいました。申し訳なく思っております。

こういう会に初めて参加したという方が六名いらつしやいました。近場で小さな会合だから参加しやすいのかも知れません。ご高齢の方はなおさらだろうと感じました。



米田二良氏と小川秀雄氏(S50 教大化)。グリークラブの先輩と後輩。久方ぶりの再開を喜び合う二人。